

子どもの素敵な言葉～子どもの権利保障は子どもの可能性を拓く～③

子どもの権利擁護委員 小林 央美



前回に引き続き、中学生の皆さんとの権利の学習会の感想から、子どもの素敵な言葉を紹介していきます。なお、感想文はプライバシーの保護を最優先に、論旨に影響のない範囲で改変して提示致します。

意見の折り合いをつける

権利の学習会では、価値葛藤の生じるような場面を想定して、グループの生徒同士で意見交換をし、グループ内の意見をまとめるという活動をしました。その結果の感想です。

『・・・人の意見と比べたり、理由もつけて自分の意見を主張することは、相手に納得してもらったり、理解してもらえるということを学びました』『一人一人の意見を尊重しながら話し合いをすることができたので良かったです。本当にいろいろな考えがあって、人それぞれに違う考えを持っていると実感した』『自分の立場や考えと相手の立場や意見が食い違い対立したとき大切なのは、いったん冷静になって相手の状況に立った上でものを考えて、それから客観的に意見を述べることだと思った。これが折り合いをつけるということだと納得した』というものでした。

意見の折り合いをつけることは、大変難儀なことです。折り合いをつけるためには、まず、自分の考えをしっかり持つこと、その上で、冷静に他者の意見を理解すること、そして、さらに互いに客観的に意見を述べながら、折り合いをつけていくことを体験しながらしっかり学んだ重みのある言葉でした。中学生のすごさを見せてもらいました。

他の人の権利も尊重しなければ、真の権利行使ではない

『自分との考えが違う人・・・その時に自分だけの考えを相手に押しつけるのではなく、相手の考えも受け入れた上で、お互いが納得する考えを出せるような人になれば、子どもの権利条例の「意見を表明し参加する権利」にのっとることができるなと思った。・・・人の意見を受け入れる柔軟な人になりたいです』という感想がありました。子どもの権利は、生まれながらにして無条件に認められるべきものですが、一方、「子どもは自分の権利が尊重されるのと同じように、他人の権利を尊重」しなければなりません。こちらも、人間の関係性の中で行使していくのは、難儀な場面があります。そのことに、生徒達が話し合いの中で気づいていっているのです。そのような力が子どもには内在していることに、感動しました。

皆で学ぶことの意味

『全員の人権を完全に尊重することは無理だと思います。……でも、それぞれの人が人権について知ることにより多くの人のより多くの人権・権利を守ることができると思います。なので、このような機会が全員が学ぶことができ、仲間との関係が良くなると思えたので、ありがたいと思いました。……全員で、ひたむきに権利について考えることができたので、本当にうれしく思いました』という意見もありました。

学校という場で、仲間と、集団で共に学び合うことの重要性を教えてくださいました。是非、多くの学校で発達段階に合わせて、子どもの権利について学ぶ機会があればいいなあと思いました。

人権は目に見えないからこそ、すごい

『……相手に分かってもらえるように伝えるのは難しかったです。でも、人権があるから意見を主張できていると思うと、人権は目に見えないからこそ、すごいんだと感じました』という感想もありました。

子どもの権利保障は子どもの可能性を拓くことであることを教えてもらいました。子どもの様子から、こちらが勇気や優しさをいただいた素敵な時間です。

